



京大広報

号外

2003. 4

目次

入学式

学部入学式における総長のことば1456

大学院入学式における総長のことば1459

大学の動き

平成15年度学部入学式1462

平成15年度大学院入学式1463

名誉教授称号授与式1464

平成15年度入学者選抜学力試験の結果1465

医療技術短期大学の動き

平成15年度医療技術短期大学部入学式1466

平成15年度医療技術短期大学部入学者

選抜学力試験の結果1466



平成15年度入学式



京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

入学式

学部入学式における総長のことば

平成15年4月7日

総長 長尾 真

本日京都大学に入学された2,882名の皆さん、まことにおめでとうございます。元総長沢田敏男先生をはじめ名誉教授の先生方をご来賓にお迎えし、ご列席の副学長、各学部長とともに皆さんの京都大学入学をお祝いするとともに、京都大学の構成員として迎え入れますことを心からうれしく存じます。

(1) 形は精神の表れである

大学といえば、皆さんは時計台と呼ばれる塔を連想するでしょう。京都大学の時計台の建物は現在全面的な改築中で時計の付いた塔は見えませんが、下部と建物全体を見ることはできません。この改築は11月中には終わり、美しい姿を皆さんの前に現わしますので期待して待ってください。

塔といえば鋭く尖った三角形をしたものや山型のものがありますが、これは天に至る強い意志を表していたり、威圧的、権威主義的な雰囲気を感じさせたりします。これに対して京都大学の時計台は四角で構成されていて、穏やかであり、調和を感じさせるものであります。この京都大学の時計台建物は京都大学建築学科の初代教授武田五一氏によって京都帝国大学本館として設計されたもので、1925年に竣工しておりますが、これは京都大学のキャンパスの中でも最も美しい建物の一つであります。

時計塔の高さは高からず低からず、中庸を得ており、四角い塔の太さも適当で、京都大学の学風である堅実さを象徴していると感じられます。またこの塔は決して威圧的でなく、我々に親しみを覚えさせますし、色調も地味な小豆色で、眼鏡のような丸い文字盤の時計は愛らしささえ感じさせます。そしてこの塔の下の建物は平らな矩形で、正面からは十数本の柱が並んで見えます。同じ高さで並ぶこれらの柱は、それぞれに教官、職員、



そして大学院学生、学部学生、新入生諸君などに見立てれば、京都大学の構成員の全てが平等に京都大学を象徴する時計台を支えているように見えますし、またこれらの柱を各学部・研究科や研究所、センターや事務部門、附属病院等であると見れば、これら全てが等しく参加して京都大学の活動に寄与していると理解することもできるでしょう。つまり、鋭い先端を持たないこの穏やかでバランスのとれた建物は、京都大学が理念としている「全てのものの調和ある共存」を表現していると解することができるのであります。時計塔や建物の上部、柱の上半につけられた石の白い色は、全体に明るい印象を与えますが、これも京都大学が権威主義的でなく、自由の学風を重んずる大学であることを感じさせます。

(2) 精神は時代と環境で育てられる

物の形は作った人の思想の表現であるとともに、その人の活動している時代や環境の意識的・無意識的な表れであります。武田五一先生は京都大学の持つ自由で明るい学風、そして教師と学生が学問の道を手を携えて共に歩んでゆくという京都大学の教育の理念、といったことを暗黙のうちに表現したのではないのでしょうか。私は京都大学の学風、性格、健全性といったことを、この時計台の建物が象徴的に表現しているものと感じ、常に時

計台の建物をながめ、愛しております。皆さんも京都大学に入学し、京都大学の建物を愛し、キャンパスを大切に、京都大学の自由の学風のもとで学問への志を強く持って学生生活を送っていただきたいと思います。

人間は自由意志を持ち、自分の考えによって行動ができますが、おかれている環境にいろんな形で影響を受けます。人は風土を離れて生活はできないのであります。また同様に人は時代からも離れることはできません。京都は平安時代から千年余りにわたって日本の首都であり、また日本文化の中心地でありました。したがって京都には日本というものの本質的なものが現代にまで脈々と続いて存在してきております。それは具体的に目に見えるものだけでなく、目に見えない空気のような形で我々京都大学にいる者にも影響を与えているとあってよいでしょう。京都大学には長い日本や東洋の文化的伝統を重んじ、学問を本質的なところまで掘り下げて考える哲学的傾向が強くなります。また一方では我々の周辺に漂っている強固な伝統に反撥し、これを打破しようとする反骨的精神も旺盛で、他では思いも及ばないアイデアを出すなどして、全ての学問分野で最先端を開拓するとともに、現代という時代を反省的・批判的に眺め、将来のための新しい学問分野を形成すべく果敢に挑戦しております。これらの創造的活動は全て世界に通用する普遍的なものでありますが、その学問の発想法や本質には日本ならではの特徴が認められ、それだからこそ独創的でありうるのであります。皆さんも学生生活を通じて京都の良さを十分に味わい、精神の糧としていただきたく存じます。

大学は皆さんの若い力によって発展していく教育研究の場であります。皆さんも既に聞いていると思いますが、国立大学は来年の四月には文部科学省の下部機関であることをやめ、自立して自己の責任によって大学を運営し、個性の輝く大学に発展してゆくことが求められています。京都大学においてもそのための準備をいろいろとしていま

すが、これまで実現することの難しかった種々のこと、特に学生諸君の勉強と学生生活がより充実したものとなる工夫をしているところであります。皆さんは大学の設置形態が変わることによってより一層勉強のしやすい環境が整備されるものと考えて、安心して自己の目的とするところに向って努力していただきたいと存じます。

(3) 物事を論理的に深く考える

「大学入試はインドに学べ」という題で東京理科大学の芳沢光雄教授がおもしろいことを書いておられます(文芸春秋2003年3月号)。日本では入学試験に×式や穴埋め問題などが増加し、数学においては証明問題は年々極端に減ってきているという現実があるのに対して、世界的に有名なインド国立工科大学の2000年度の数学入試は10問全てが証明問題で、京都大学の入学試験問題などよりハイレベルのものであったとのことであります。またインドではたとえ計算問題であっても、その計算過程を詳しく論理的に言葉で明記しながら解答しなければ点数がもらえないのだそうであります。つまりインドの教育は1ステップずつ論理的に進んでゆくという、時間はかかるが着実な学問的態度を取っているわけで、こういった訓練が今日のインドを世界のソフトウェア大国にしている理由であると芳沢教授は述べておられます。コンピュータソフトウェアの記述は論理的に正確で、あらゆる場合を考えた証明文を書くように緻密でなければならないからであります。

京都大学の学問研究の態度はまさにこのような考え方にたっており、事実を徹底的に調べ、深く思考することによって独創的な研究成果をあげ、新しい学問を築いてきたのであります。手っ取り早く結果を出すことが、長い目で見たとき必ずしも大きな成果をもたらさないということであります。今日全てにおいてスピードが必要であると言われてはいますが、教育研究の場合ゆっくりと注意深く進んでゆくことも大切であり、よく考える必要があるでしょう。

(4) 京大生は学問をしよう

京都大学ではこれまで何回か教育・研究を中心とする大学の諸活動について点検を行い、自己点検・評価報告書を出してきました。その中には京都大学の学生がどのような特徴と欠点を持っているかについて卒業生の方々の意見を調査した結果も報告されています。それによりますと、京都大学は学問の自由、自由の学風ということを標榜し教育研究を行ってきたわけですが、学生諸君もこの気風を十分に活用して学生生活を送っていることが分かります。つまりのびのびと自分のやりたい勉強をし、また学生生活を楽しんでいるわけがあります。しかし調査結果によりますと、主として最初の一、二年の時に学ぶ一般教養科目よりも三、四年時に学ぶ専門科目をより熱心に勉強したという結果が出ています。皆さんはそれぞれの学部に入り、その学部が与える知識を習得してその分野の専門家として卒業してゆくことを目指しているわけで、それぞれの専門分野の知識を習得する努力をするのは当然であります。しかしそのためには基礎学力を十分に養わねばなりません。また社会に出て専門知識を適切に用いて問題を解決しようとするれば、広く種々の知識を持ち、深い教養を持たねばなりません。したがって専門科目とともに、主として一、二年時に学ぶ一般教育科目をしっかり勉強していただきたく存じます。

皆さんがそもそも京都大学に入学したのは単に専門分野の知識を得るためではなく、学問をするためであります。したがって皆さんはそれぞれに学問とは何かを自分に問うてみる必要があります。高等学校までの勉強とは違って大学においては知識とともに、物の考え方、学問の仕方、といったことを教えます。これは皆さんが社会に出て未知の問題に出合った時に必要となることであります。知識は時代とともに新しくなりますので、常にこれを学んでゆく必要がありますが、物の見方、解決の方法といった学問の方法はいわば普遍的なことであり、これを学生時代に習得することは勉強のために必要であるばかりか、皆さんの人格を形

成し、これからの長い人生に対してしっかりした基礎を与える最も大切なものでもあります。皆さんはこれまでの受験勉強から開放されたのですから、広くいろんなことを自由に学び、人格の形成に役立てていただきたく存じます。

(5) 京大生の欠点を克服しよう

京都大学の自己点検・評価報告書には京都大学を卒業する学生諸君の欠点についても指摘がなされています。京都大学の学生は、国際性と協調性に欠けるところがあるという指摘であります。今日どの国も他国との関係を考えずに存在することはできず、企業もほとんど全て世界に活動の範囲を広げていますから、これからの人達は国際的な視野をもって種々のことを学ぶとともに、諸外国の人達と十分に交渉できるだけの外国語能力と知識、そしてしっかりとした自分の考え方、意見を持ち、それを堂々と述べ、人を納得させる力を持つことが求められます。特に英語でコミュニケーションできる能力はこれからの京都大学卒業生の全てに必要とされるものであります。京都大学における語学教育はできるだけ少人数の教室で密度の高い教育をする努力をし、いつでも外国語を自習できる語学ラボを提供していますが、それ以外にもいろんな機会を利用して英語による会話能力や意見の発表の能力をつける努力をしていただきたく存じます。

京都大学の学生は勉強はよくできるが、たくましさや足りないと言われることがあります。これは京都という平和な都市の中で他にほとんど競争相手がいないという環境が大きな影響を与えているのではないかと思います。大阪や東京、あるいは世界のあちこちの都市では学生諸君がそれぞれに他大学の学生と交流したり、他の国の大学に留学したりして自分の世界を広げる努力をしています。井の中の蛙であってはなりません。皆さんも積極的に外に目を向け、外に出てゆくことが必要であります。未知の世界に挑戦し、自分の世界を広げる努力をすることは特に学生時代のような若

い年代において必要なことであり、そうすることによって人との協調性が身につく、またたくましい人間に成長してゆくのであります。

こういったことは頭で考えるだけでは身につかず、実行することが大切であります。実行した結果が失敗に終わっても全く問題はありません。皆さんはこれまでほとんど失敗したという経験がない人達でしょうが、失敗しても恐れずに再度挑戦するとか、新しい道を見つけて立ち上がるといったことは若い時にこそできることであり、それは皆さんの長い人生にとっての大きな力となります。外国の大学への短期留学、長期留学などの仕方については、皆さんが既にもらっている学生便覧に書いてあります。積極的に外国へ出て行くようにしてください。

(6) 学生生活を充実させよう

京都大学は国内有数の研究中心の大学であります。学生の教育にはより一層の努力を払い、将来の日本を支え世界で活躍する人材を育成しようとしております。特に今年度は高等教育研究開発推進機構を作り、皆さんの教養教育がより一層充

実したものとなるよう努力をしております。しかしそれが皆さんの日常における実践、将来における行動につながってゆくようにしなければなりません。現在の大学教育で欠けているのは、この実践・行動のための訓練であります。そこでこれを補うために、京都大学では課外活動を奨励しております。各種のスポーツクラブや文化系のサークルがあり、その他にボランティア活動などもあります。こういった活動を通じて、皆さんは忍耐力を養い、良い友人関係を作り、人格を磨くことができるのであります。したがって、いろいろなことに積極的に参加し、皆さんの学生生活が充実したものとなることを期待します。京都大学はそういった面でもいろいろと努力をしていますが、何よりも大切なことはそれぞれの皆さんの自覚的・積極的な努力であります。

学問に王道なしであります。学問は教えられるものではなく、自分がするものであります。このことを忘れず忍耐強く努力することによって、皆さんには輝かしい未来が約束されるのであります。皆さんの将来に期待し、お祝いの言葉といたします。

大学院入学式における総長のことば

平成15年4月7日

総長 長尾 真

本日京都大学大学院に入学されました博士前期課程2,172名、博士後期課程982名の皆さん、おめでとうございます。皆さんが京都大学の活動を支える構成員として我々の仲間に入っていたことは大変うれしく、ご列席の副学長、各研究科長とともに心から歓迎致します。

大学院の前期課程においてはある程度の数の授業を受けねばなりません。後期課程ではその数が大きく減り、研究が中心となります。皆さんは

大学院へ入ってきた以上、各自が自分の研究テーマを明確に持っていることが必要です。このテーマをどのような観点からどのように攻略し、修士論文、博士論文にまとめるかということについても、いろいろと考えていることと思います。今日では良い研究成果を早くあげれば、所定の期間在学しなくても学位を得ることができる時代となってきましたので、ぜひともしっかりと勉強し、また研究を行ってください。



学問の仕方については、古く本居宣長の「宇比山踏」(1798年、宣長69才の著作)に含蓄のあることが書かれています。『いやしくも学問に志す者は、始めからこれをやるのだという課題があって、また学問の方法も本人が見つかるべきである。それがかなわぬ人はどこから入ってゆくのがよいか、あれこれと問い求めることになるが、よい課題、よい方法を見つけるかどうかによって、随分差が出てくるものである。しかし課題は他が押しつけるべきものではなく、本人が選ぶべきものである。学問の成果をあげるには、自分の好きなこと、自分の性に合ったことをするのがよいのであって、やり方についてもこうすればよいと教えるのは容易であるが、その通りにするのが本当に良いものかどうか疑問である。本人に任せるしかないのである。要は、忍耐強く長期間励むことが必要で、心がくじけるようではいけない。』というわけです。学問を志す若い弟子をつき放したような言葉ですが、これは、宣長の長年の学問への精進の経験から得た結論なのでしょう。京都大学の大学院で学問をしようとする皆さんには、自分で道を見つけてゆく覚悟がなければなりません。

本居宣長は、今日の我々にとっても考えさせられるもう一つの重要なことを述べております。それは朱子学や儒学が支配的であった江戸時代において、日本古来の精神のすばらしさを発見し、その大切さを自覚し、日本人は日本人の精神性の上に学問を築くべきだと主張したのであります。真

に独創的な思想や学問は、文科系・理科系にかかわらず、自分のおかれた歴史的・社会的環境の中で徹底的に考えるという研究者の主体的意欲によってこそたらされるということ、宣長の学問が我々に示してくれているとあってよいでしょう。他人の学問・研究の上にちょっと接木をするようでは大きな学問は育ちません。こういったことについても皆さんによく考えていただきたいと思えます。

さて今日、社会からの大学批判は相当に厳しいものがあります。大学院学生については、視野が狭く、自分の研究したことの延長線上でしか物事を考えず、新しい課題に取り組む積極性に欠けるといったことが言われています。そういったこともあってか日本の社会は博士後期課程修了者をあまり歓迎せず、修士課程修了者を採用するという傾向がいつまでたっても改善されません。これからの大学院修了者は、修士課程修了の人はもちろんのこと、博士課程修了の人は特に学問研究をしっかりとしたわけですから、専門分野の深い知識の他に、他の分野についても広い視野と適切な判断力を持っているべきですし、また種々の新しい課題に対してそれまでの経験を生かして積極的に取り組むことができねばならないでしょう。ぜひともそういった人材となって大学院を修了してゆけるよう努力をしていただくことを希望します。

皆さんもご存知のことと思いますが、来年度から専門職大学院制度が発足することになります。法科大学院、いわゆるロースクールやビジネススクールなどと呼ばれているものがその典型ですが、その他に公衆衛生分野など、国家資格等の職業資格と関連した専攻分野や、社会的に高度な専門職業能力を持つ人材育成が必要とされている専門分野など、種々の専門分野で二年ないし三年の標準修業年限のコースで実務を徹底的に教育するものであります。この専門職大学院構想が文部科学省で検討されたとき、現在の大学院修士課程の修了では社会に出たときただちに実務に役立たないから新たな教育課程を作るという提案に対し、少な

くとも理工系の修士課程を修了した人は十分に実際に役立っているという発言もあり、通常の修士課程と専門職大学院との違いはどこにあるかを明確にすることに議論が集中しました。

専門職大学院の場合、まずその分野の実務に十分な知識と経験のある人を教官に相当数持つこと、専門職大学院の学生は授業科目の履修の他に、実務の実習、事例研究、現地調査などをするに、従来の大学院のように研究をするのではないといったことに修士課程との違いを出すことになりましたが、少なくとも工学系の場合は両者の区別はあまり判然としません。

ただ今後このような専門職大学院ができると、そこからは毎年かなりの数の修了生が出ることになり、大学院へ入学された皆さんでずっと研究生活を続けるのではなく、修士を終わって社会に出てゆくという人の場合は、よほどよく自覚をもって研究的能力と実務的能力の両方についての力をつける必要がでてくるでしょう。でなければ、専門職大学院修了者の方が社会から歓迎されるということになりかねません。

これからの社会はますます全てのことについての公平性、透明性を重視し、競争的な環境を整備

するとともに、敗者に対する救済、調和のとれた社会の発展という方向を目指すことになるでしょうから、専門的知識とともに他の種々の分野の状況についての理解力とバランスのとれた考え方、職業倫理、社会道德といったことを必要とします。専門職大学院では、専門分野の実務の他に、専門家としての職業倫理を教え、職業人としての使命感を持たせる教育も行うべきであると思いますが、こういったことは専門職大学院だけでなく、従来の大学院で学ぶ人達にも当然必要なことであります。したがって皆さんは自分の研究、関連分野の広い知識などの他に、職業倫理についても勉強し、社会に貢献するという使命感をもたねばなりません。

京都大学大学院で学ぶ皆さんは良い研究成果をあげるとともに、ここに述べましたように、これまでの大学院での教育研究とは違った新しい大学院が自分の周囲に作られようとしていることをよく知り、自分の幅を広げ、人格を確立し、将来社会の各方面におけるリーダーとして活躍できる基礎を作るべく努力していただきたく存じます。

皆さんの大学院生活が実りあるものであることを期待し、お祝いの言葉と致します。



大学の動き

平成15年度学部入学式

4月7日(月)午前10時から、平成15年度学部入学式が、名誉教授はじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、

京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午前10時35分に終了した。

今年度の新入生数は、次表のとおりである。

入試区分 部局名	一般入試 (前期)	一般入試 (後期)	外国学校 出身者選抜	外国人留 学生特別選 抜	編入学	再入学	学士入学	総計
総合人間学部	111 ^人	24 ^人						135 ^人
文学部	193	31					3	227
教育学部	40	22			8			70
法学部	325	32	8	1	25			391
経済学部	206	28	10	8	10	1		263
理学部	271	30						301
医学部	90	10						100
薬学部	70	11		3				84
工学部	861	100		21	11		3	996
農学部	243	69		3				315
総計	2,410	357	18	36	54	1	6	2,882



平成15年度大学院入学式

4月7日(月)午後3時から、平成15年度大学院入学式が、名誉教授はじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午後3時25分に終了した。

今年度の新入生数は、次表のとおりである。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、

	修士課程				博士後期課程									
	入学者	外国人留学生 国費	留学生 私費	合計	編入 入学者	外国人留学生 国費	留学生 私費	再入 学者	小計	進学者	外国人留学生 国費	留学生 私費	小計	合計
文学研究科	99 ^人		5 ^人	104 ^人	14 ^人	2 ^人	1 ^人		17 ^人	48 ^人		1 ^人	49 ^人	66 ^人
教育学研究科	39		5	44						25			25	25
法学研究科	46	5	12	63	1		1	1	3	8	1	5	14	17
経済学研究科	53	10	23	86	7	4	3		14	29	2	5	36	50
理学研究科	253	3	3	259	26	3	2		31	143	3		146	177
薬学研究科	81		3	84	2	1			3	16			16	19
工学研究科	589	6	13	608	24	5	3		32	69	7	6	82	114
農学研究科	287	2	8	297	8	4	8		20	71	7	4	82	102
人間・環境学 研究科	144	4	14	162	7	2	2		11	55	2	7	64	75
エネルギー 科学研究科	132		1	133	7	1			8	12		1	13	21
情報学研究科	179	2	9	190	12	3	1		16	27	1	2	30	46
生命科学研究科	79		1	80	7				7	42			42	49
医学研究科	32		2	34	6				6	3			3	9
地球環境学舎	27		1	28										
合計	2,040	32	100	2,172	121	25	21	1	168	548	23	31	602	770

	博士課程				
	入学者	外国人留学生 国費	留学生 私費	転入学者	合計
医学研究科	157	6	7	1	171

	一貫制博士課程								
	入学者	外国人留学生 国費	留学生 私費	小計	編入 入学者	外国人留学生 国費	留学生 私費	小計	合計
アジア・アフリカ 地域研究研究科	21	3	1	25	2	1	2	5	30

	博士課程								
	編入 入学者	外国人留学生 国費	留学生 私費	小計	進学者	外国人留学生 国費	留学生 私費	小計	合計
地球環境学舎	6			6	5			5	11

名誉教授称号授与式

4月4日(金)午前11時から、名誉教授称号授与式が、京大会館において挙行された。

授与式は、部局長の出席のもとに行われ、称号授与のあと、「総長のあいさつ」があり、午前11時35分終了した。

称号を授与された方は、次の52人である。



(氏名)	(推薦部局)	(氏名)	(推薦部局)
工藤 章	(原子炉実験所)	井上 信	(原子炉実験所)
西山 孝	(エネルギー科学研究科)	石田 英 實	(理学研究科)
山岡 義 生	(医学研究科)	橋本 伊 織	(工学研究科)
大山 莞 爾	(生命科学研究所)	高橋 保	(防災研究所)
坂本 亘	(農学研究科)	宮本 宗 實	(総合人間学部)
松野 隆 一	(農学研究科)	駒井 謙治郎	(工学研究科)
松波 弘 之	(工学研究科)	中川 照 眞	(薬学研究科)
柴崎 浩	(医学研究科)	井上 達 雄	(エネルギー科学研究科)
松本 澄	(人間・環境学研究科)	小久保 正	(工学研究科)
稲本 志 良	(農学研究科)	天知 輝 夫	(農学研究科)
大谷 浩	(理学研究科)	村松 岐 夫	(法学研究科)
大引 得 弘	(エネルギー理工学研究所)	鈴木 健二郎	(工学研究科)
近藤 文 男	(経済学研究科)	井上 紘 一	(工学研究科)
本田 孔 士	(医学研究科)	市川 厚	(薬学研究科)
津田 盛 也	(農学研究科)	皇 紀 夫	(教育学研究科)
海田 能 宏	(東南アジア研究センター)	益川 敏 英	(基礎物理学研究所)
河瀬 晃四郎	(農学研究科)	日野 龍 夫	(文学研究科)
林 力 丸	(農学研究科)	小西 淳 二	(医学研究科)
古澤 保	(防災研究所)	西嶋 光 昭	(理学研究科)
内藤 正 明	(工学研究科)	長岡 弘 明	(工学研究科)
阪上 孝	(人文科学研究所)	齊藤 眞 弘	(原子炉実験所)
鈴木 康 弘	(再生医科学研究所)	古川 久 雄	(アジア・アフリカ地域研究科)
石原 潤	(文学研究科)	後藤 喬 雄	(人間・環境学研究科)
岡崎 甚 幸	(工学研究科)	山崎 高 哉	(教育学研究科)
祖田 修	(農学研究科)	宮本 盛太郎	(総合人間学部)
稲田 伊久穂	(総合人間学部)	小嶋 祥 三	(霊長類研究所)

平成15年度入学者選抜学力試験の結果

平成15年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の前期日程試験は2月25日（火）・26日（水）に、後期日程試験は3月13日（木）・14日（金）に実施した。

学部別の受験者数、合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

学 部	(A)		倍 率 (B/A)	(C)		欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	追加合格者数	入学者数		
	募集人員	志願者数		第1段階 選抜合格者数	受験者数							倍 率 (C/A)	
総 合 人 間	130人	人		人	人	人	%	人	人		人		
前 期	文系	55	234	4.3	229	227	4.1	2	0.9	55	135		
	理系	55	234	4.3	222	222	4.0	0	0.0	56			
	後 期	20	380	19.0	320	196	9.8	124	38.8	24			
文 学 部	220												
前 期		190	592	3.1	592	589	3.1	3	0.5	193	1	224	
	後 期	30	390	13.0	301	146	4.9	155	51.5	32			
教 育 学 部	60												
前 期		40	138	3.5	138	138	3.5	0	0.0	40		62	
	後 期	20	137	6.9	137	93	4.7	44	32.1	22			
法 学 部	340												
前 期		320	893	2.8	892	883	2.8	9	1.0	325		357	
	後 期	20	388	19.4	340	125	6.3	215	63.2	32			
経 済 学 部	230												
前 期	一般	160	534	3.3	534	525	3.3	9	1.7	160	4	234	
	論文	50	305	6.1	251	250	5.0	1	0.4	50			
	後 期	20	560	28.0	560	348	17.4	212	37.9	28			
理 学 部	301												
前 期		271	956	3.5	927	919	3.4	8	0.9	271	2	2	301
	後 期	30	1,105	36.8	1,084	764	25.5	320	29.5	30			
医 学 部	100												
前 期		90	440	4.9	399	390	4.3	9	2.3	90		100	
	後 期	10	196	19.6	149	110	11.0	39	26.2	10			
薬 学 部	80												
前 期		70	307	4.4	307	300	4.3	7	2.3	70		81	
	後 期	10	201	20.1	201	138	13.8	63	31.3	11			
工 学 部	955												
前 期		857	2,184	2.5	2,182	2,162	2.5	20	0.9	861		961	
	後 期	98	888	9.1	783	384	3.9	399	51.0	100			
農 学 部	300												
前 期		233	665	2.9	665	657	2.8	8	1.2	244	3	312	
	後 期	67	818	12.2	818	536	8.0	282	34.5	71			
小 計	前 期	2,391	7,482	3.1	7,338	7,262	3.0	76	1.0	2,415			
	後 期	325	5,063	15.6	4,693	2,840	8.7	1,853	39.5	360			
計		2,716	12,545	4.6	12,031	10,102	3.7	1,929	16.0	2,775	10	2	2,767

(注) 受験者数・欠席率は最終教科のものである。

[外国学校出身者のための選考の実施結果 (外数)]

学 部	(A)	(B)	倍 率	(C)	倍 率	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	入学者数
	募集人員	志願者数	(B/A)	第1次 選考合格者数	(C/A)					
法 学 部	20以内人	30人	1.5	21人	13人	8人	38.1%	9人	1人	8人
経 済 学 部	10以内	24	2.4	15	13	2	13.3	10		10

医療技術短期大学の動き

平成15年度医療技術短期大学部入学式

4月8日(火)午前10時から、平成15年度医療技術短期大学部入学式が、名誉教授をはじめ来賓出席のもとに、本短期大学部講堂において挙行された。

入学式は、長尾 真学長の式辞、来賓祝辞があり、午前10時20分終了した。

平成15年度医療技術短期大学部入学者選抜試験の結果

医療技術短期大学部では、平成15年度入学者選抜試験を3月1日(土)、2日(日)に実施し、その合格者を3月10日(月)に発表した。ただし、助産学特別専攻の入学者選抜試験は1月24日(金)に実施し、合格発表は1月31日(金)に行った。

受験者数、合格者数及び入学者数は次表のとおりである。

区 分	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数
看 護 学 科	80 人	271 人	227 人	116 人	80 人
衛 生 技 術 学 科	40	358	316	60	40
理 学 療 法 学 科	20	183	150	23	20
作 業 療 法 学 科	20	129	110	26	20
小 計	160	941	803	225	160
助産学特別専攻	20	128	125	20	20
合 計	180	1,069	928	245	180

